

はじめに

みやぎの ICT 教育研究専門部会長
熊野 充利（宮城教育大学副学長）

「みやぎの ICT 教育研究専門部会」が活動を始めて 3 年の月日が流れました。

今年度は昨年度から参加していた宮城県松島高等学校、宮城県石巻工業高等学校、仙台城南高等学校、宮城県登米総合産業高等学校、宮城県気仙沼高等学校の 5 校に加え、宮城県蔵王高等学校、宮城県多賀城高等学校、石巻市立桜坂高等学校の 3 校が加わりました。この 8 つの公私立の高等学校は、「みやぎの ICT 教育研究専門部会」で実践的な研究を担っています。

各校においては、カリキュラムにも ICT に関する設備・環境にも違いはありますが、それぞれの特徴を生かした実践が報告されています。

この 3 年間の活動の中で、教員が ICT を活用して知識を伝えるだけでなく、生徒が ICT を活用して学び、表現する取り組みが多く見られるようになりました。授業実践を通して、ICT の教育活用に関する広がりや深まりを感じています。

今年度は研究テーマに「アクティブ・ラーニングと ICT」を掲げ、検討をすすめてきました。本報告書でも、次期学習指導要領のキーワードになることが予想される「主体的・対話的で深い学び」を目指した、多くの実践研究が報告されています。

参加校のひとつである仙台城南高等学校で開催した「みやぎの ICT 教育研究専門部会」の研究協議会には、多くの方にご参加いただきました。研究協議会における研究授業に対して「ICT が授業に溶け込んでいる」とのご評価をいただくことができました。ICT の教育への利活用を検討することから、授業改善の文脈の中に ICT 利活用を検討するという新たなステージに私たちがさしかかったと考えています。宮城県の近未来の教育を追究していく場として、「みやぎの ICT 教育研究専門部会」の役割は今まで以上に重要になっていくと感じています。

本報告書は、平成 28 年度に行われた「みやぎの ICT 教育研究専門部会」での実践の取り組み状況やその成果、実践において明らかになった課題などを取りまとめたものです。宮城県をはじめ、全国の ICT 教育に関わる皆様にご覧いただき、子どもたちが学ぶ喜びを味わい、さらに深い学びにつなぐことができれば、この研究に携わる者として大変幸せに思います。